

『VIEW21』高校版・2018年度「実践AL」単元の指導計画

【教科・科目】	人間探究・世界史実践（学校設定科目）
【分野・単元】	イギリスの覇権と欧米の国民国家建設
【テーマ・作品】	「国民」とは誰のことか、「自由」とは誰の自由か
【設定時数】	全9時間中の8時間目の後半～9時間目の前半
【単元目標】	18～19世紀の欧米の経済的・政治的変革から産業社会と国民国家の形成を理解する。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	イギリスの覇権と自由主義	イギリスが産業革命で形成した競争力を基盤に、経済・政治面で自由主義改革を行ったこと、アイルランド人はそのイギリスの労働力の一部となり発言権を得ていったことを理解している。【知識、思考力】	①ナポレオン戦争の影響、及び「国民」「自由」を考える単元であることも確認する。 ②兄弟げんかを例に、重商主義と自由主義の違いについて考え、理解する。 ③イギリスによるアイルランド併合を、「国民国家」形成の観点から考える。	【主体的な学び】①全体音読では、誤読や読みづらい語句がないかに留意。②年度当初に、音読や地図描画には生徒の弱点を把握できるメリットがあることを共有。 【対話的な学び】①音読やダイアログをペアで行う。②生徒が輪番で黒板に地図を描く。③ペア及び全体交流の時、ほかの生徒の発言を楽しんでいるか。④音読時、相手に読んで聞かせるように留意。⑤人物の画像や地図などをペアで確認する時、協力する姿勢があるように留意。 【深い学び】①「自分より強い相手とけんかする時、ルールはほしい？ その逆なら？」②自由主義を強く志向する者は、その分野における優位を確信している傾向があるという点に留意させ、身近な例や現代の貿易交渉などにその事例があることに気づかせる。重商主義との比較にも留意。	
2	ウィーン体制の成立、ラテンアメリカの独立、ギリシア独立戦争	19世紀前半、ヨーロッパをフランス革命前の状況に戻そうとするウィーン体制が成立したが、その体制は自由主義・国民主義運動と大國間利害対立によって揺らいでいったことを理解している。【知識、思考力】	①ナポレオン戦争の影響を確認する。 ②ウィーン議定書の内容を資料集・地図で確認する。 ③ラテンアメリカの社会構造と独立運動の関係を整理する。 ④オスマン帝国の支配領域と、そこにギリシアが含まれることを確認する。	【主体的な学び】①年号はしつこく発問する(年号比較は歴史的思考の必要条件)②必要に応じてプリントの構成について説明し、1人で復習する時に迷わないようにガイドしておく。 【深い学び】「自由主義と国民主義が、なぜウィーン体制にとって都合が悪いのか」を捉えさせる。	
3	【前期中間考査】『なめらかな社会とその敵』(鈴木健)より抜粋文を読む	主権国家成立からフランス革命までの学習内容を踏まえ、ある論説文を読み、この時代と現代を社会科学者の視点から捉えることができる。【思考力】	考査時間。抜粋文からの出題は主に啓蒙思想に関するものであるが、これまでに学んだ主権国家体制を想起させる文章。また同じ文章に「膜」と「核」という視点から世界と人間の見方を考える部分があるのでこれを入れて読ませる。考査後の試験返却のときに感想を少し聞く。考査後の授業への仕掛けの一つ。		
4	フランス七月革命とその影響	ヨーロッパ各地で、市民を中心とする自由主義・国民主義運動が、政権維持を目指す各国政府とウィーン体制を揺るがせていくことを理解している。【知識、思考力】	①考査返却。反省会と解説。 ②フランス革命の影響を確認する。 ③自由主義・国民主義運動の特徴を資料集・地図で確認、整理する。	【主体的な学び】①小さなランカセで「革命のエチュード」を聞かせ、ドラクローア絵画も見せ、苦手な文化史も歴史の事件と関連づけて楽しめるよう留意。 【深い学び】①各地域での自由主義・国民主義運動の主体が誰であるかに着目させ、共通点と違いに気づかせる。	
5	社会主義思想の出現と展開	自由主義の行き過ぎを是正しようとする社会主義理論が発展し、国民主義でない、労働者の国際連帯と社会改革を重視する動きが現れたことを理解している。資本主義が自由を重んじ、社会主義が平等を重んじるなどの左右両派の特徴と、今後教科書に出てくる政治勢力の位置づけを指標を用いておおまかに判断できる準備が整っている。【知識、思考力、判断力】	①「アルバイトするとしたら何をやる？」「時給はいくらがいい？」という問いを出発点に、マルクスの批判した資本主義の問題点を理解する。ペアワーク。 ②社会主義改革の具体的手法とそれを志向する人々について考える。 ③資本主義・社会主義の考え方の違いや、急進・穏健の度合いを「思想の定規」を用いて大きざっぱに整理する。	【主体的な学び】①近日、近隣の映画館で公開の映画「マルクス・エンゲルス」紹介。興味喚起。 【深い学び】①「私有財産廃止、やりたい人・やりたくない人？」②いま世界と日本にある政党が、「思想の定規」のどのあたりに位置するか考えてみる。③ただし時代によって変化する相対的な指標であることには十分な注意喚起が必要。	・小テスト ・定期考査 ・論述課題 ・授業の感想
6	1848年革命と「諸国民の春」	社会主義思想への理解を踏まえ、七月主政が労働者と中下層ブルジョアジーにより打倒され、その影響がヨーロッパ各地に及んだことを理解している。【知識、思考力】	①社会主義の考え方を踏まえ、二月革命の展開と影響を理解する。	【主体的な学び】①「ラデツキー行進曲」を聞かせ、苦手な文化史も歴史の事件と関連づけて楽しめるよう留意。 【深い学び】①「労働者にとって一番怖いものはなにか」②「農民にとって一番大切なものはなにか」③「三月革命でのメッテルニヒ失脚を民族は？」④「なぜオーストリア帝国内の民族運動をロシアが抑圧するのか」	
7	ロシア東方問題と二つの戦争(クリミア戦争・露土戦争)	ロシアを中心とする「東方問題」の展開と南下政策の失敗、自由主義改革とその挫折について理解している。ロールプレイングを通して他者とともに学ぶことができる。【知識、思考力、判断力、主体性、協働性】	①ロシア南下政策における基本の3方面を地図で確認。 ②「ボスボラス・ダーダネルス海峡」をかまらずに言う練習。地図上での位置と黒海・地中海における地政学的位置関係を確認する。 ③ナロードニキ運動のロール・プレイング ④サン・ステファノ条約の内容を地図上で確認。英露対立の原因を理解する。 ⑤ロシアの3度の南下政策について「失敗した」の記述を教科書で探し、3か所にマーカー・メモする。	【主体的な学び】①「今日はいろいろややこしい。でもみんなてがなばろう」と確認。生徒の学びを後押し。先に言っておかないと辛くなる範囲。 【対話的な学び】①ロールプレイング終了後、知識人役を引き受けた生徒に対する拍手・感謝があるか。知識人役の生徒には御礼。 【深い学び】①「なぜロシアは南下政策をとるのか」②「なぜイギリスはロシアの南下に反発するのか」③「なぜ農奴解放令でロシアの工業化が進むのか」④「なぜビスマルクがベルリン会議を開くのか」	
8	イタリアとドイツの統一、フランス第2帝政から第3共和政	ウィーン体制崩壊で独伊で上からの国家統一の動きが加速し、プロイセン中心のドイツ統一も普仏戦争の勝利で完成したこと、またフランス第2帝政による対外戦争の失敗と第3共和政成立の流れについて理解している。【知識、技能、思考力、判断力】	①1848年までの独伊における自由主義・国民主義運動を振り返る。 ②地名が出てくることに地図で確認する。 ③ビスマルク外交とその結果を地図上で確認する。 ④第3共和政下の政治的不安定さを「思想の定規」と教科書読解で理解する。	【主体的な学び】①「今日もいろいろややこしい。でも人間が面白い。頑張りや」と確認。②「美しく青きドナウ」を聞かせ、文化史を歴史の事件と関連づけられるよう留意する。 【深い学び】①「なぜオーストリア、ローマ教皇がイタリア統一に反対するのか」②「なぜ大ドイツ主義と小ドイツ主義が対立するのか」③「ビスマルク外交にとって最も大切な相手はどこか」	
9	アメリカの拡大と国家統合	領土拡張が続くアメリカで移民による西部開拓が進む一方、先住民への迫害が起きたこと、南北戦争が黒人奴隷制の是非や貿易政策を争点に発生し、その後、工業国として成長していく流れを理解する。【知識、技能、思考力、判断力】	①自然条件からアメリカ北部と南部で産業構造の違いがあったことを振り返る。 ②西部開拓の進展を地図上で確認する。 ③南北戦争の死者数などを資料集を用いて確認する。 ④「国民」とは誰かを考える。	【主体的な学び】①「ここからずっとややこしい。でもそろそろ慣れてきたよね」。②単元の最後に出てくるアメリカは、歴史上特異な成立経緯を持つ国であることを押さえ、「国民国家形成」のまとめとして、これまでの学習を振り返り整理させる。 【対話的な学び】①「アメリカの国民が国民意識を感じると思われるもの」について、その根拠をペアで話し合い、全体でも共有。 【深い学び】①アメリカ民謡「線路は続くよどこまでも」を流し、「この歌を明るく歌える人は誰だろう」と問いかける。②参考資料として「なめらかな社会とその敵」の定期考査で出題した問題文を再度配布する。	